

も り

森林のたより



神奈川県産苗木現地視察会を開催しました。



コンテナ苗の育苗状況を説明する齋藤主任研究員(右)

3月6日(水)南足柄市にある神奈川県立21世紀の森において、神奈川県産苗木現地視察会を開催しました。

今回の現地視察会は、現在林野庁を挙げて取り組みが進められている低コスト造林の推進に必要な不可欠な「コンテナ苗」について、その育苗状況等や神奈川県産苗木の概要を知ることによって、当署職員(特に若手職員)の見識を深めるとともに県産苗木の利用促進を図る目的で開催しました。

当日は、当署職員のほか、林野庁森林利用課森林環境保全班の職員3名を含めた15名での視察となりました。

今回の視察会では、神奈川県自然環境保全センター研究連携課齋藤主任研究員、神奈川県山林種苗協同組合 小宮専務理事らを講師として、無花粉スギや無花粉ヒノキの発見に至った経緯等について説明を受けるとともに、実際の植栽箇所における生育状況等を視察しました。



無花粉スギ(左)と少花粉スギ(右)における花粉の生産状況が一目瞭然!



無花粉スギの生長は、5年で4.4m! 下刈りの回数削減にも貢献できるのではと期待されます。

また、併せて神奈川県山林種苗協同組合 町田理事長所有のコンテナ苗育苗施設において、コンテナ苗の育苗状況等を視察しました。

視察を終え、林業県では無いものの神奈川県産苗木のポテンシャルの高さに、ただただ感服でした。一方で造林面積の伸び悩みなどから、県内で生産される苗木は約9万本で頭打ちの状況です。今回の視察会を踏まえ、引き続き神奈川県、県苗組と連携した取り組みを進めていきたいと思えます。(@>>)

